

土木学会 地震工学委員会

耐震基準小委員会 第13回委員会 議事録

1. 日 時：平成11年8月4日（水） 14:00～17:00
2. 場 所：司法書士会館
3. 出席者：17名
4. 配付資料：資料13-1 耐震基準小委員会 第12回委員会 議事録（案）

資料13-2 3章 耐震設計に用いるレベル2地震動（案）

資料13-3 耐震設計のガイドライン 目次（案）

資料13-4 耐震設計のガイドラインの担当者一覧（案）

資料13-5 耐震設計のガイドライン検討資料（1章）

5. 議事内容：

- (1) 耐震基準小委員会 第12回議事録（案）の確認（資料13-1 参照）

第12回委員会 議事録（案）について説明が行われ、その内容が確認された。

- (2) 話題提供「レベル2地震動の考え方」（資料13-2 参照）

大町達夫氏（東京工業大学）より、レベル2地震動の考え方（土木学会土木構造物の耐震設計法に関する特別委員会 第1WG）について話題提供が行われた。

1. 概説
2. 対象とすべき地震の選定
3. 震源断層を想定した地震動の評価

4. 不確定性の評価

5. レベル 2 地震動の下限基準

その後、以下に示す内容の議論が行われた。

- ・地震観測を行うことは大切であるが、設計を行う際、必ずしも実行できるとは限らない。

- ・地表での観測記録を一度、線形解析で基盤面に戻し再度、非線形解析を行うことによって設計地震動を求める必要がある。

- ・様々な特性（長周期、短周期、液状化など）を持った地震動を、設計地震動として考える必要があるのか。

- ・対象とする構造物が決まれば、構造物に影響を及ぼす地震動は決まる。地震動のどのような因子が、構造物に影響を与えるのか。

- ・地震動は、種々用意しておき、構造物を設計する際、問題となる地震動を選ぶ。

- ・土木構造物の設計に、地震発生確率の考え方を適用して良いのか。

- ・求められる耐震性能の水準は、経済性とのバランスを考え、合理的な判断に基づき、決定することが重要である。

(3) 耐震設計のガイドライン（案）について（資料 12-3～5 参照）

- ・国際標準への対応として、耐震設計のガイドラインを要約したものを作成し、これを Code for Code-writers とする。

- ・「1 章 概説」に、用語・記号の定義について記述する。

- ・次回小委員会では、「6 章 構造物の応答値の算定」、次々回小委員会では、「7 章 部材の耐震性能の照査」について議論する。

(4) その他

- ・次回、小委員会の予定は以下の通りである。

日時：平成11年10月12日（火）14:00～17:00

以上

記録：沢野嘉延